

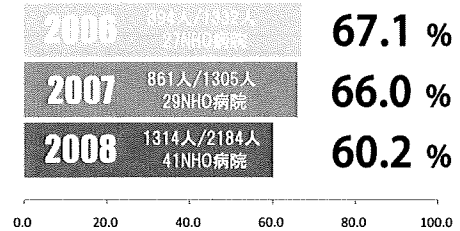
8. C型慢性肝炎入院患者に対するIFN治療率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、IFNの投与が行われた患者の数
 ※IFNの定義(商品名:IFNαモチダ、IFNβモチダ、アドパフェロン、イントロンA、オーアイエフ、スミフェロン、フェロン、ベガス、ペグイントロン)

【分母】計測期間内に退院した患者の中で「C型慢性肝炎」を主病名として3日以上期間入院していた患者数

■年度別比較【平均値】



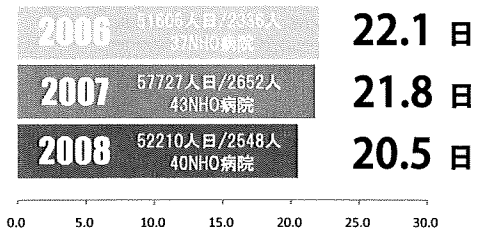
9. 急性心筋梗塞:平均在院日数

計測方法

【分子】分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、「急性心筋梗塞」が主病名であり、3日以上入院期間があり、退院転帰が「死亡」以外であった患者数

■年度別比較【平均値】



10-1. 急性心筋梗塞の重症度別死亡率(重症度A)

計測方法

【分子】分母対象例のうち、退院時の転帰が「死亡」であった患者数(各重症度別)

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、「急性心筋梗塞」を主病名に入院した患者数(各重症度別)

*重症度の分類

- 人口呼吸なし、大動脈バルーンパンピング法なし、経皮的心肺補助法なし群
- 人工呼吸あり群(大動脈バルーンパンピング法なしかつ経皮的心肺補助法なし)
- 大動脈バルーンパンピング法あり群(人口呼吸実施の有無は問わない)

■年度別比較【平均値】



10-2. 急性心筋梗塞の重症度別死亡率(重症度B)

計測方法

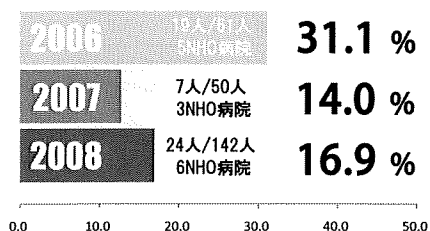
【分子】分母対象例のうち、退院時の転帰が「死亡」であった患者数(各重症度別)

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、「急性心筋梗塞」を主病名に入院した患者数(各重症度別)

*重症度の分類

- 人口呼吸なし、大動脈バルーンパンピング法なし、経皮的心肺補助法なし群
- 人工呼吸あり群(大動脈バルーンパンピング法なしかつ経皮的心肺補助法なし)
- 大動脈バルーンパンピング法あり群(人口呼吸実施の有無は問わない)

■年度別比較【平均値】



10-3. 急性心筋梗塞の重症度別死亡率(重症度C)

計測方法

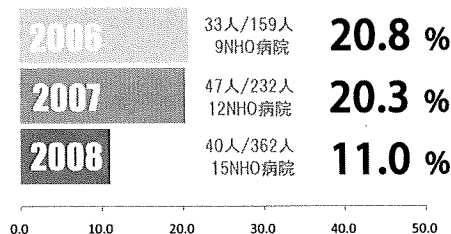
【分子】分母対象例のうち、退院時の転帰が「死亡」であった患者数(各重症度別)

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、「急性心筋梗塞」を主病名に入院した患者数(各重症度別)

*重症度の分類

- A. 人口呼吸なし、大動脈バルーンポンピング法なし、経皮的肺補助法なし群
 B. 人工呼吸あり群(大動脈バルーンポンピング法なしかつ経皮的肺補助法なし)
 C. 大動脈バルーンポンピング法あり群(人口呼吸実施の有無は問わない)

■年度別比較【平均値】



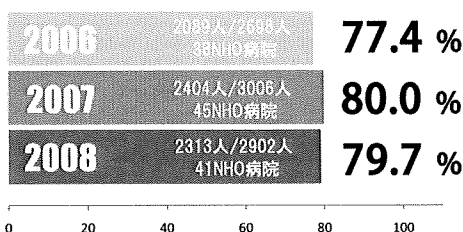
11. 急性心筋梗塞患者における入院当日若しくは翌日のアスピリン投与率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、入院当日もしくは翌日の処方歴に「アスピリン」「バップアリン」等、アスピリン処方がされていた患者数

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、「急性心筋梗塞」を主病名に入院した患者数

■年度別比較【平均値】



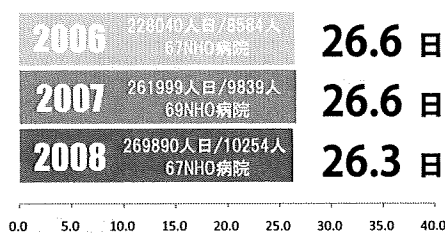
12. 脳血管障害:平均在院日数

計測方法

【分子】分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、退院時主病名が「脳卒中」「脳梗塞」「脳塞栓」「脳出血」「一過性脳虚血発作」であり、入院後に頭部CTスキャンもしくは頭部MRI検査がなされている50歳以上の患者で、かつ3日以上90日以下の入院がある者の数(転帰が死亡である場合、病名に「くも膜下出血」がある場合は除外する)

■年度別比較【平均値】



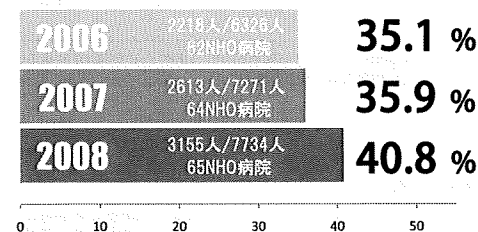
13. 脳梗塞患者における早期リハビリ開始率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、入院日より4日の時点で身体機能リハビリ処方が開始された患者数

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、退院時主病名が「脳梗塞」であり、入院後に頭部CTスキャンもしくは頭部MRI検査がなされている50歳以上の患者で、かつ3日以上90日以下の入院がある者の数(転帰が死亡である場合、病名に「くも膜下出血」がある場合は除外する)

■年度別比較【平均値】



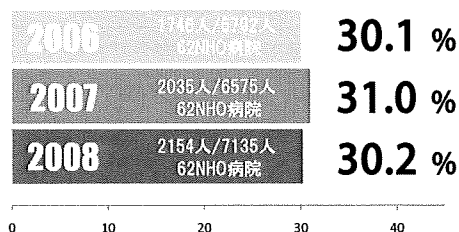
14. 脳梗塞患者における初期少量アスピリン投与率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、入院当日もしくは翌日の処方層に「アスピリン」「バップアリン」等、アスピリン処方のオーダーが出されていた患者数(他の抗血小板薬、もしくはワーファリンが処方されており、アスピリンの処方がない場合対象としない)

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、退院時主病名が「脳梗塞」「一過性脳虚血発作」であり、入院後に頭部CTスキャンもしくは頭部MRI検査がなされている50歳以上の患者のうち、入院期間が3日以上90日以下の患者数(転帰が死亡である場合、病名に「くも膜下出血」「脳出血」「脳梗塞」「心房細動」がある場合は除外する)

■年度別比較【平均値】



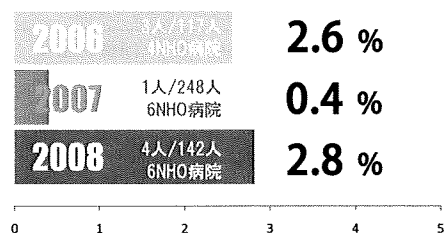
15-1. 低出生体重児(1000-1500g未満)の死亡率[NICU設置病院]

計測方法

【分子】転帰が死亡である極低出生体重児(1000~1500g未満)の数

【分母】計測期間内に退院した児で当該病院に入院し、生後1週以内の出生体重が1000~1500g未満であった児の数

■年度別比較【平均値】



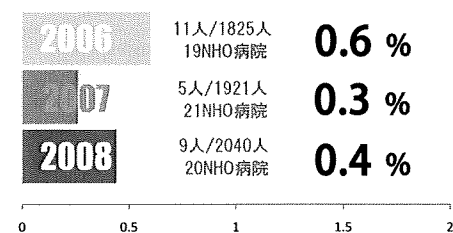
15-2. 低出生体重児(1500-2500g未満)の死亡率[NICU設置病院]

計測方法

【分子】転帰が死亡である低出生体重児(1500~2500g未満)の数

【分母】計測期間内に退院した児で当該病院に入院し、生後1週以内の出生体重が1500~2500g未満であった児の数

■年度別比較【平均値】



15-3. 低出生体重児(1000-2500g未満)の死亡率[NICU非設置病院]

計測方法

【分子】転帰が死亡である低出生体重児(1000~2500g未満)の数

【分母】計測期間内に退院した児で当該病院に入院し、生後1週以内の出生体重が1000~2500g未満であった児の数

■年度別比較【平均値】



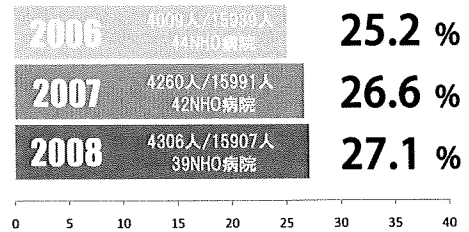
16. 出産予定妊婦の帝王切開率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、帝王切開が実施された妊婦の数

【分母】36週以降43週未満で当該病院で出産を行った妊婦の数

■年度別比較【平均値】



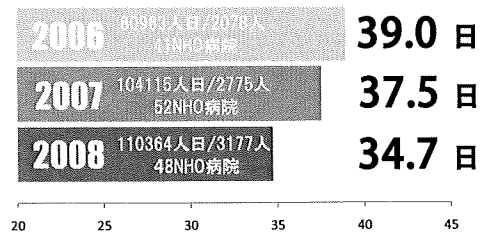
17. 大腿骨頭置換術:平均術後在院日数

計測方法

【分子】分母対象例の術後在院日数(退院日－手術日)の総和

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、入院中に「大腿骨頭置換術」を受けた患者数

■年度別比較【平均値】



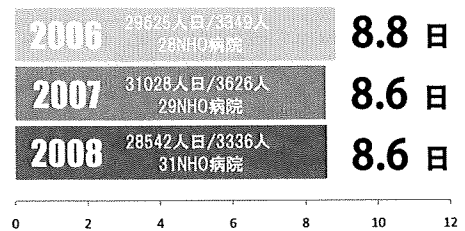
18-1. 白内障手術:平均在院日数〔両眼手術の場合〕

計測方法

【分子】分母対象例の在院日数(退院日－入院日＋1)の総和

【分母】計測期間内に「白内障」を主病名として白内障手術を行い、2日以上の期間入院した患者数(両眼白内障手術の場合)

■年度別比較【平均値】



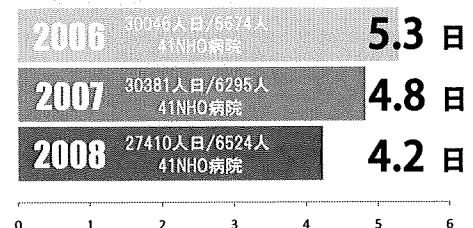
18-2. 白内障手術:平均在院日数〔片眼手術の場合〕

計測方法

【分子】分母対象例の在院日数(退院日－入院日＋1)の総和

【分母】計測期間内に「白内障」を主病名として白内障手術を行い、2日以上の期間入院した患者数(片眼白内障手術の場合)

■年度別比較【平均値】

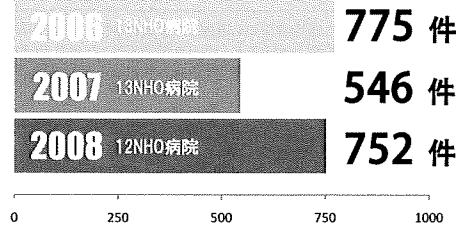


18-3. 外来における白内障手術件数

計測方法

計測期間内に外来にて「白内障手術」を実施した件数

■年度別比較【平均値】



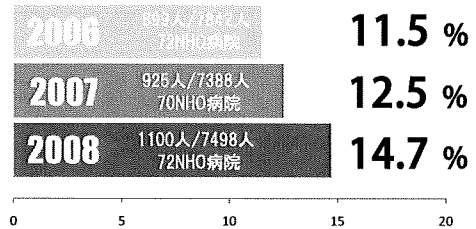
19. 超重症児(者)受け入れ率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、計測期間内に超重症児(者)入院診療加算を1回以上算定した患者実数

【分母】計測期間内に重症心身障害児(者)病棟入院中であった重症心身障害児(者)実数 * 7日以内の短期入所を除く

■年度別比較【平均値】



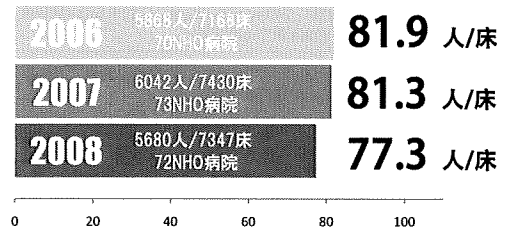
20. 重症心身障害児(者)短期入院受け入れ率

計測方法

【分子】計測期間内に退院した重症心身障害児(者)のうち、入院期間7日間以内であった短期入院患者数

【分母】2006年4月1日、2007年4月1日および2008年4月1日の重症心身障害児(者)病棟の病床数(運営病床数)

■年度別比較【平均値】



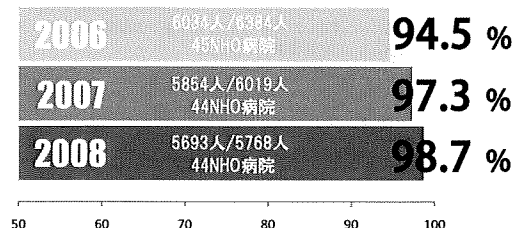
21. 結核入院患者DOTS実施率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、DOTS開始がなされた患者

【分母】計測期間内に結核病棟に入院中で、主病名が「肺結核」かつ3日以上180日未満の期間入院した患者で、抗結核薬が処方された患者数

■年度別比較【平均値】



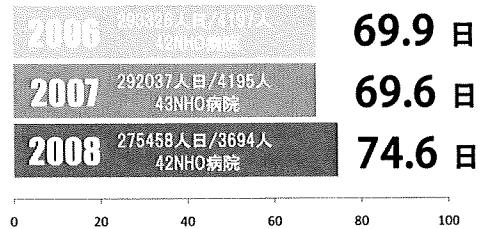
22. 排菌陽性結核患者の平均在院日数

計測方法

【分子】分母対象例の在院日数(退院日-入院日+1)の総和

【分母】計測期間内に結核病床から退院した患者のうち、主病名が「肺結核」で、入院期間が3日以上、180日未満であった患者で「痰塗末標本」で陽性であった実患者数(多剤耐性結核患者数を除く)

■年度別比較【平均値】



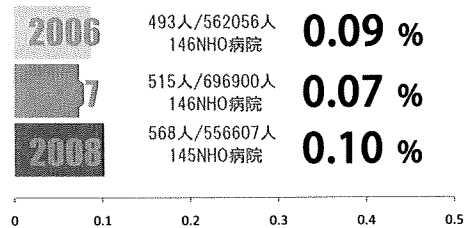
23. 全入院患者中のHIV陽性率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、HIV陽性であった患者数

【分母】計測期間内に退院した患者数

■年度別比較【平均値】



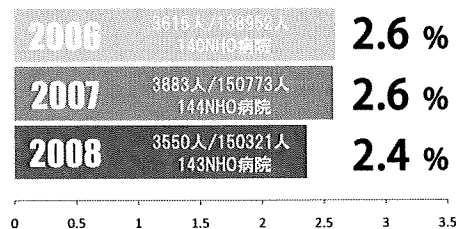
24. 退院患者中の褥瘡(Ⅱ度以上)の院内発生率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、褥瘡対策に関する治療計画書(院内発生)にてNPUAP分類にてStageⅡ以上、もしくはDESIGN評価表にてd2以上の褥瘡を有する患者数

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、入院時褥瘡評価で褥瘡のない75歳以上(退院時年齢)の患者数

■年度別比較【平均値】



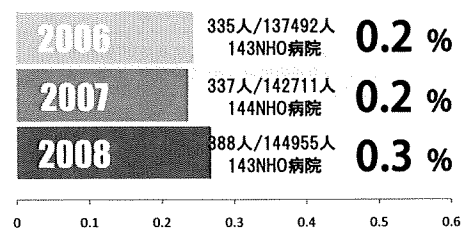
25. 75歳以上の入院患者における入院中の骨折率

計測方法

【分子】分母対象例のうち、入院中に骨折し、加療を行った患者数

【分母】計測期間内に退院した患者のうち、3日以上の期間入院した75歳以上(退院時年齢)の患者数

■年度別比較【平均値】



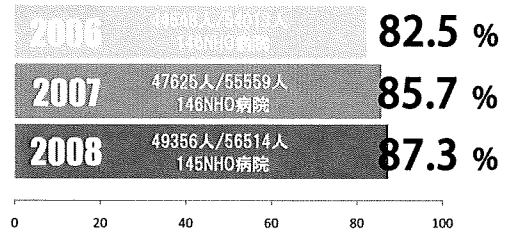
26. 病院職員のインフルエンザワクチン接種率

計測方法

【分子】分母対象者のうち、自施設でインフルエンザワクチンを接種した職員数

【分母】院内職員対象インフルエンザワクチン接種を開始した月の初日に在職している非常勤職員を含む病院職員数(派遣職員を除く)

■年度別比較【平均値】



臨床評価指標 計測対象病院と計測期間の定義

指標項目	計測対象病院	計測期間
1. 原発性肺がん入院中死亡率(切除例)	「肺がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に30名以上(実数)いる病院で、肺がんに対する手術治療を行なっている病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
2-1. 肺がん切除例の5年生存率(Stage I)	「肺がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に20名以上(実数)いる病院で、肺がんに対する手術治療を行なっている病院	2001年度('01年4月1日～'02年3月31日に手術を実施した患者) 2002年度('02年4月1日～'03年3月31日に手術を実施した患者) 2003年度('03年4月1日～'04年3月31日に手術を実施した患者)
2-2. 肺がん切除例の5年生存率(Stage II)	「肺がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に10名以上(実数)いる病院で、肺がんに対する手術治療を行なっている病院	2001年度('01年4月1日～'02年3月31日に手術を実施した患者) 2002年度('02年4月1日～'03年3月31日に手術を実施した患者) 2003年度('03年4月1日～'04年3月31日に手術を実施した患者)
3. 乳がん切除例の5年生存率(Stage II)	「乳がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に20名以上(実数)いる病院で、乳がんに対する手術治療を行なっている病院	2001年度('01年4月1日～'02年3月31日に手術を実施した患者) 2002年度('02年4月1日～'03年3月31日に手術を実施した患者) 2003年度('03年4月1日～'04年3月31日に手術を実施した患者)
4. 大腸がん切除例の5年生存率(Stage III)	「大腸がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に10名以上(実数)いる病院で、大腸がんに対する手術治療を行なっている病院	2001年度('01年4月1日～'02年3月31日に手術を実施した患者) 2002年度('02年4月1日～'03年3月31日に手術を実施した患者) 2003年度('03年4月1日～'04年3月31日に手術を実施した患者)
5. 胃がん手術:平均術後在院日数	「胃がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に20名以上(実数)いる病院で、胃がんに対する手術治療を行なっている病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
6. 大腸がん手術:平均術後在院日数	「大腸がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に20名以上(実数)いる病院で、大腸がんに対する手術治療を行なっている病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
7. うつ病:平均在院日数	精神科病棟を持つ病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
8. C型慢性肝炎入院患者に対するIFN治療率	「内科」または「消化器科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
9. 急性心筋梗塞:平均在院日数	「循環器科」または「心臓血管外科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
10. 急性心筋梗塞重症度別死亡率	「循環器科」または「心臓血管外科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
11. 急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率	「循環器科」または「心臓血管外科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
12. 脳血管障害:平均在院日数	「神経内科」、「循環器科」、「内科」または「脳神経外科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
13. 脳梗塞患者における早期リハビリ開始率	「神経内科」、「循環器科」、「内科」または「脳神経外科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
14. 脳梗塞患者における初期少量アスピリン投与率	「神経内科」、「循環器科」、「内科」または「脳神経外科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
15. 低出生体重児(1000～2500g未満)死亡率	「産科」及び「小児科」を標榜する病院 A) NICUを有する病院 B) NICUの無い病院 ※NICUとは新生児特定集中治療室管理料加算を算定する病床をいう。	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
16. 出産予定妊婦の帝王切開率	「産科」及び「小児科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に出産した妊婦) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に出産した妊婦) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に出産した妊婦)
17. 大腿骨頭置換術:平均術後在院日数	「整形外科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)

指標項目	計測対象病院	計測期間
18-1. 白内障手術:平均在院日数 [両眼手術の場合]	「眼科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
18-2. 白内障手術:平均在院日数 [片眼手術の場合]	「眼科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
18-3. 外来における白内障手術件数	「眼科」を標榜する病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に手術を行っている患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に手術を行っている患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に手術を行っている患者)
19. 超重症児(者)受け入れ率	重症心身障害病棟を持つ病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に入院していた患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に入院していた患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に入院していた患者)
20. 重症心身障害児(者)短期入院受け入れ率	重症心身障害病棟を持つ病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
21. 結核入院患者DOTS実施率	結核病床を持つ病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に入院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に入院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に入院した患者)
22. 排菌陽性結核患者の平均在院日数	結核病床を持つ病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
23. 全入院患者中のHIV陽性率	全病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
24. 退院患者中の褥瘡(Ⅱ度以上)の院内発生率	入院基本料の施設基準項目の褥瘡対策に関する下記基準を満たしている施設。 (1)当該保険医療機関において、褥瘡対策が行われていること。 (2)当該保険医療機関において、褥瘡対策に係る専任の医師及び専任の看護職員から構成される褥瘡対策チームが設置されていること。 (3)当該保険医療機関における日常生活の自立度の低い入院患者につき一律に褥瘡に関する危険因子の評価が実施されていること。	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
25. 75歳以上の入院患者における入院中の骨折率	全病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日に退院した患者) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日に退院した患者) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日に退院した患者)
26. 病院職員のインフルエンザワクチン接種率	全病院	2006年度('06年4月1日～'07年3月31日) 2007年度('07年4月1日～'08年3月31日) 2008年度('08年4月1日～'09年3月31日)



独立行政法人
国立病院機構本部

〒152-8621 東京都目黒区東が丘 2-5-21
e-mail : clinical-indicator@nho.go.jp

臨床評価指標 2006～2008の成績変化一覧

番号	項目	2006～2007 への変化	2007～2008 への変化
		結果	結果
1	原発性肺がん入院中死亡率(切除例)	不変	不変
2-1	肺がん切除例の5年生存率(Stage I)	不変	不変
2-2	肺がん切除例の5年生存率(Stage II)	不変	不変
3	乳がん切除例の5年生存率(Stage II)	不変	不変
4	大腸がん切除例の5年生存率(Stage III)	不変	不変
5	胃がん手術:平均術後在院日数	不変	不変
6	大腸がん手術:平均術後在院日数	不変	不変
7	うつ病:平均在院日数	不変	不変
8	C型慢性肝炎入院患者に対するIFN治療率	不変	減少
9	急性心筋梗塞:平均在院日数	不変	不変
10-1	急性心筋梗塞(AMI)の重症度別死亡率(重症度A)	不変	不変
10-2	急性心筋梗塞(AMI)の重症度別死亡率(重症度B)	不変	不変
10-3	急性心筋梗塞(AMI)の重症度別死亡率(重症度C)	不変	減少
11	急性心筋梗塞(AMI)患者における入院当日若しくは翌日のアスピリン投与率	不変	不変
12	脳血管障害:平均在院日数	不変	不変
13	脳梗塞患者における早期リハビリ開始率	不変	増加
14	脳梗塞患者における初期少量アスピリン投与率	不変	不変
15-1	低出生体重児(1000-1500g未満)の死亡率[NICU設置病院]	減少	増加
15-2	低出生体重児(1500-2500g未満)の死亡率[NICU設置病院]	減少	不変
15-3	低出生体重児(1000-2500g未満)の死亡率[NICU非設置病院]	減少	不変
16	出産予定妊婦の帝王切開率	増加	不変
17	大腿骨頭置換術:平均術後在院日数	不変	不変
18-1	白内障手術:平均在院日数[両眼手術の場合]	不変	不変
18-2	白内障手術:平均在院日数[片眼手術の場合]	不変	不変
18-3	外来における白内障手術件数	減少	増加
19	超重症児(者)受け入れ率	増加	増加
20	重症心身障害児(者)短期入院受け入れ率	減少	減少
21	結核入院患者DOTS実施率	増加	増加
22	排菌陽性結核患者の平均在院日数	不変	増加
23	全入院患者中のHIV陽性率	減少	増加
24	退院患者中の褥瘡(Ⅱ度以上)の院内発生率	不変	減少
25	75歳以上の入院患者における入院中の骨折率	不変	増加
26	病院職員のインフルエンザワクチン接種率	増加	増加

■ 改善したと思われる

■ 悪化または悪化・改善のどちらとも言えない

国立病院機構
臨床評価指標 2009 計測マニュアル

平成 21 年 3 月

臨床評価指標一覧

ページ数	
3	原発性肺がん入院中死亡率（切除例）
4	肺がん切除例の5年生存率（Stage I, II）
8	乳がん切除例の5年生存率（Stage II）
10	大腸がん切除例の5年生存率（Stage III）
12	胃がん手術：平均術後在院日数
13	大腸がん手術：平均術後在院日数
14	うつ病：平均在院日数
15	C型慢性肝炎入院患者に対するIFN治療率
16	急性心筋梗塞：平均在院日数
17	急性心筋梗塞の重症度別死亡率
18	急性心筋梗塞患者における入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率
21	脳血管障害：平均在院日数
23	脳梗塞患者における早期リハビリ開始率
25	脳梗塞患者における初期少量アスピリン投与率
28	低出生体重児（1000～2500g未満）死亡率
30	出産予定妊婦の帝王切開率
31	大腿骨頭置換術：平均術後在院日数
32	白内障手術：平均在院日数
35	超重症児（者）受け入れ率
36	重症心身障害児（者）短期入院受入れ率
37	結核入院患者DOTS実施率
38	排菌陽性結核患者の平均在院日数
39	全入院患者中のHIV陽性率
40	退院患者中の褥瘡（Ⅱ度以上）の院内発生率
41	75歳以上の入院患者における入院中の骨折率
42	病院職員のインフルエンザワクチン接種率
43	手術後予後調査にかんする説明用紙及び回答用紙

1. 原発性肺がん入院中死亡率(切除例)

1)対象病院	「肺がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に20名以上(実数)いる病院で、肺がんに対する手術治療を行なっている病院	
2)計測期間等	平成20年度(H20年4月1日～21年3月31日に退院した患者)	
3)計測対象 <切除例>	分子	分母対象例のうち、手術後30日以内に死亡退院した患者数(がん以外が死亡原因である場合も含む)
	分母	計測期間内に退院した患者のうち、「肺がん」治療を目的として入院し、入院中に肺切除術が行われた患者数

<計測フローチャート>

分母の確定方法

①診療情報管理(病歴管理)システム、医事レセプトデータ、病院情報システムの部門データ(各診療科、手術部、薬剤部)より

平成20年度に退院した患者のうち、原発性肺がん(転移性肺がんを除く)の手術(切除術)を実施した患者をリスト化する。そして分母となる患者数をカウントする。→分母の確定
但し、試験開腹等は除く(下記のKコード参照)

②上記①の方法によりデータ収集ができない場合は、レセプトの主病名が「肺がん」である患者で、かつ手術を実施した患者をリスト化する。そして分母となる患者数をカウントする。

手術の実施を確認するにあたっては医事システムにより、手術のKコード

(K5111～K5116,K513,K5141,K5142,K5143,K514-21,K514-22,K5182)を検索する。

→分母の確定

分子の確定方法

診療情報管理(病歴管理)システム、医事レセプトデータ、病院情報システムの部門データ(各診療科、手術部、薬剤部)より

分母対象例のうち

① 平成20年度最終退院時の転帰が死亡であり、かつ

② 手術後30日以内の死亡退院であること

を確認し、その患者数をカウントする。→分子の確定

2-1. 肺がん切除例の5年生存率(Stage I)

1) 対象病院	「肺がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に20名以上(実数)いる病院で、肺がんに対する手術治療を行なっている病院	
2) 計測期間等	平成15年度(H15年4月1日～16年3月31日に手術を実施した患者)	
3) 計測対象	分子	分母対象例のうち、院内情報や郵送による予後調査により「生存」を確認した数
	分母	計測期間内に「肺がん」を主病名として、手術治療(肺の切除術)が行われた患者のうち、病理組織所見上の病期がStage Iであった患者数

* 粗生存率である。

* 安否が不明の患者については、分母から除外せず、分子には生存の確認が行われた患者のみを「生存」としています。そのため論理的には実際の生存率よりも低い値となります。

<計測フローチャート>

報告シート(c)の確定方法

1. 診療情報管理(病歴管理)システム、医事レセプトデータ、病院情報システムの部門データ(各診療科、手術部、薬剤部)より

平成15年度中に原発性肺がんを主病名とし、肺切除術を実施した患者をリスト化する

2. 診療録より

主病名が原発性肺がんであることを確認し、病理組織所見上の病期 Stage Iを確認する。

1及び2を満たす患者数をカウントする。

→(c)の確定

報告シート(a)、(b)、(d)の確定方法

3. 施設内調査を行う

①患者の最終来院日を確認する。

手術日から5年を経過し、外来受診等で生存の確認をした患者、再入院等で死亡を確認した患者情報を確認する。癌死以外の死因も死亡としてカウントする。

②各診療科の持つ情報を収集し確認する

診療科において独自に予後調査を実施している場合は、その情報を入手する。

→①と②より生存者数をカウントし、(a)を確定する。

4. 施設内調査で、安否不明な場合

患者宛に予後調査用紙(別添参照)を郵送し安否を確認する。返送があった回答のうち生存者数をカウントし、(b)を確定する。

回答が返送されなければ、消息不明とし、消息不明者の合計数を(d)とする。

* $(a+b)/c$ を生存率(粗生存率)とする。

※各病院のプライバシーポリシーの中で「郵送による予後調査」の実施が許容されているかどうか確認して下さい。許容できない場合は郵送による予後調査は行わず、報告用シートに「郵送調査未実施」と記入して報告して下さい。

※郵送する書類は別添「当院の入院患者様における手術後の予後調査についてお願い」及び「当院の入院患者様における手術後の予後調査回答用紙」の文面を用い、これらの書類とともに返信用封筒を同封の上、郵送してください。

(考え方)

分母(c)→院内情報にて安否確認→生存(a)

→死亡

→不明→質問紙郵送により安否確認→生存(b)

→死亡

→不明(d)

※a～dは報告シートの記入欄の記号を示す

2-2. 肺がん切除例の5年生存率(Stage II)

1)対象病院	「肺がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に20名以上(実数)いる病院で、肺がんに対する手術治療を行なっている病院	
2)計測期間等	平成15年度(H15年4月1日～16年3月31日に手術をした患者)	
3)計測対象	分子	分母対象例のうち、院内情報や郵送による予後調査により「生存」を確認した数
	分母	計測期間内に「肺がん」を主病名として手術治療(肺の切除術)が行われた患者のうち、病理組織所見上の病期がStage IIであった患者数

* 粗生存率である。

* 安否が不明の患者については、分母から除外せず、分子には生存の確認が行われた患者のみを「生存」としています。そのため論理的には実際の生存率よりも低い値となります。

<計測フローチャート>

報告シート(c)の確定方法

1. 診療情報管理(病歴管理)システム、医事レセプトデータ、病院情報システムの部門データ(各診療科、手術部、薬剤部)より

平成15年度中に原発性肺がんを主病名とし、肺切除術を実施した患者をリスト化する

2. 診療録より

主病名が原発性肺がんであることを確認し、病理組織所見上の病期 Stage IIを確認する。

1及び2を満たす患者数をカウントする。→分母の確定

報告シート(a)、(b)、(d)の確定方法

3. 施設内調査を行う

①患者の最終来院日を確認する。

手術日から5年を経過し、外来受診等で生存の確認をした患者、再入院等で死亡を確認した患者情報を確認する。癌死以外の死因も死亡としてカウントする。

②各診療科の持つ情報を収集し確認する

診療科において独自に予後調査を実施している場合は、その情報を入手する。

→①と②より生存者数をカウントし、(a)を確定する。

4. 施設内調査で、安否不明な場合

患者宛に予後調査用紙(別添参照)を郵送し安否を確認する。返送があった回答のうち生存者数をカウントし、(b)を確定する。

回答が返送されなければ、消息不明とし、消息不明者の合計数を(d)とする。

* $(a+b)/c$ を生存率(粗生存率)とする。

※各病院のプライバシーポリシーの中で「郵送による予後調査」の実施が許容されているかどうか確認して下さい。許容できない場合は郵送による予後調査は行わず、報告用シートに「郵送調査未実施」と記入して報告して下さい。

※郵送する書類は別添「当院の入院患者様における手術後の予後調査についてお願い」及び「当院の入院患者様における手術後の予後調査回答用紙」の文面を用い、これらの書類とともに返信用封筒を同封の上、郵送してください。

(考え方)

分母(c)→院内情報にて安否確認→生存(a)

→死亡

→不明→質問紙郵送により安否確認→生存(b)

→死亡

→不明(d)

※a～dは報告シートの記入欄の記号を示す

3. 乳がん切除例の5年生存率(Stage II)

1)対象病院	「乳がん」を主病名に入院した患者が計測期間内に20名以上(実数)いる病院で、乳がんに対する手術治療を行なっている病院	
2)計測期間等	平成15年度(H15年4月1日～16年3月31日に手術をした患者)	
3)計測対象	分子	分母対象例のうち、院内情報や郵送による予後調査により「生存」を確認した数
	分母	計測期間内に「乳がん」を主病名として乳房の切除術(乳房温存術を含む)が行われた患者のうち、病理組織所見上の病期がStage IIであった患者数

* 粗生存率である。

* 安否が不明の患者については、分母から除外せず、分子には生存の確認が行われた患者のみを「生存」としています。そのため論理的には実際の生存率よりも低い値となります。

<計測フローチャート>

報告シート(c)の確定方法

1. 診療情報管理(病歴管理)システム、医事レセプトデータ、病院情報システムの部門データ(各診療科、手術部、薬剤部)より

平成15年度中に乳がんを主病名とし、乳房切除術(乳房温存術を含む)を実施した患者をリスト化する

2. 診療録より

主病名が乳がんであることを確認し、病理組織所見上の病期 Stage IIを確認する。

1及び2を満たす患者数をカウントする。→分母の確定

報告シート(a)、(b)、(d)の確定方法

3. 施設内調査を行う

①患者の最終来院日を確認する。

手術日から5年を経過し、外来受診等で生存の確認をした患者、再入院等で死亡を確認した患者情報を確認する。癌死以外の死因も死亡としてカウントする。

②各診療科の持つ情報を収集し確認する

診療科において独自に予後調査を実施している場合は、その情報を入手する。

→①と②より生存者数をカウントし、(a)を確定する。

4. 施設内調査で、安否不明な場合

患者宛に予後調査用紙(別添参照)を郵送し安否を確認する。返送があった回答のうち生存者数をカウントし、(b)を確定する。

回答が返送されなければ、消息不明とし、消息不明者の合計数を(d)とする。

* $(a+b)/c$ を生存率(粗生存率)とする。

※各病院のプライバシーポリシーの中で「郵送による予後調査」の実施が許容されているかどうか確認して下さい。許容できない場合は郵送による予後調査は行わず、報告用シートに「郵送調査未実施」と記入して報告して下さい。

※郵送する書類は別添「当院の入院患者様における手術後の予後調査についてのごお願い」及び「当院の入院患者様における手術後の予後調査回答用紙」の文面を用い、これらの書類とともに返信用封筒を同封の上、郵送してください。

(考え方)

分母(c)→院内情報にて安否確認→生存(a)

→死亡

→不明 →質問紙郵送により安否確認→生存(b)

→死亡

→不明(d)

※a～d は報告シートの記入欄の記号を示す